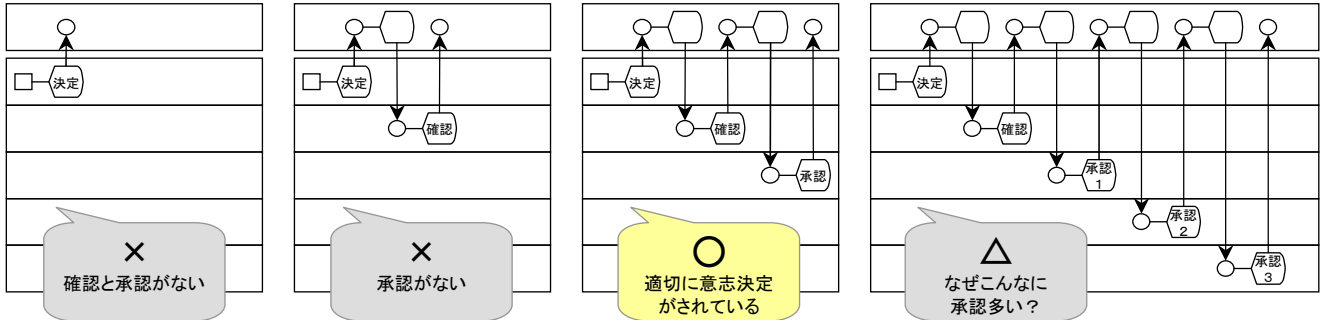






## 導入効果の一例：内部統制のための業務分析にPLAN-PROC



コンプライアンスへの関心の高まりから昨今、「内部統制」が話題になっています。

内部統制の実現では、業務プロセスを分析し、相互牽制上の問題点・リスクを発見することが重要になります。

その分析工程の可視化の部分で、PLAN-PROCを適用することにより、問題点やリスクがより明確に発見できるのです。

例えば、何らかの意思決定をする場合、その業務プロセスの本質パターンは「決定(入力)→確認→承認」のようにほぼ決まっています。

現状の業務プロセスを『IPFチャート』で可視化すると、問題を含む業務プロセスは、承認のステップがなかったり、不必要に多段階になっていたという本質パターンと異なる形で現れます。

あるべき業務プロセスの検討とは、本質パターンと異なる形であらわれた業務プロセスを見つけ出し、権限と役割の観点から「だれ」が、「どのタイミング」で、「どこまで」を実施すべきかを整理し直すことで、新規の業務プロセスモデルを作成することなのです。

『IPFチャート』では、情報の連携手順にフォーカスしてプロセスを記述するため、入出力(画面・帳票)、つまり情報を中心に組織間のやりとりが、シンプルに明示されます。これにより、組織内での処理方法や細かな違いにとらわれない適切な粒度での業務分析が可能になります。

このように「PLAN-PROC」を適用していただくことにより、広範囲業務の分析においても、効率的な実施が可能です。

業務プロセスが適切か否かは、その特性・パターンから比較的容易に判断可能ですが、問題点をもれなく発見するためには、業務で取り扱うデータをつかむことが鍵になります。例えば、意志決定とは思えない業務に、意志決定を必要とするデータ項目が含まれている…などの問題は、業務プロセスの可視化だけでは見つけることはできません。このため、業務で取り扱う情報そのものも分析することが重要になります。(「PLAN-DB」の適用)

## PLAN-PROC教育サービス

「PLAN-PROC」の教育プログラムとして、以下を用意しております。ぜひご活用ください。

開催形式	DRiオンサイト教育コース	貴社様向けに開催する教育プログラム。ご要望に応じて、日時・場所・人数などフレキシブルに対応します。 以下コースの他にアレンジを加えての実施も可能です。受講人数がまとまれば、スケールメリットにより教育コストの削減も計れます。
業務プロセスモデリングの基礎と演習(PR)		
概要	業務プロセスモデル(IPFチャート)の位置付け、モデルの構成要素と表記ルールを理解し、作成の手順を習得します。	
対象	業務分析・要件定義工程のご担当者。業務プロセスモデルの表記法および作成手順を学びたい方。	
受講内容	1. 仕事の手順とは何か 2. IPFチャートの構成要素 3. 構成要素間のいろいろな関係 4. 利用目的とIPFチャートの表記レベル 5. 基本論理組織の設定	6. IPFチャートの作成 7. 演習 8. オプション表記 9. IPFチャートを作成する単位を決める

お問合せ先：株式会社データ総研 営業担当 TEL:03-5695-1651 / E-Mail:crm@drinet.co.jp

## 株式会社データ総研

代表取締役社長 黒澤 基博

1985年創立。データ設計と標準化に特化したITコンサルティングファーム。データ中心アプローチ(DOA)のパイオニアとして知られる。

PLAN-DB®、PLAN-CODE®をはじめとする設計技法や開発方法論をベースに、わが国のリーディングカンパニー約260社を支援。

800件を超えるデータ仕様ライブラリを有する。

東京都中央区日本橋小伝馬町4-11サンコービル TEL:03-5695-1651 FAX:03-5695-1656 <http://www.drinet.co.jp>